

須賀川市立博物館での古文書調査 — 歴史資料保全活動 —

東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門では、「地域と歩む歴史学へ」というテーマのもと活動しており、令和元年(2019)からは須賀川市立博物館と共同で、須賀川市域の古文書調査を実施しています。

さまざまな状態で保管されていた古文書をクリーニングし、1点ずつ整理番号を付けて封筒に入れ、さらに文書箱におさめます。これらの封筒や箱は中性紙で作られたもので、古文書の保存に適したものです。このように保存処置を施したうえで、多くの方々に古文書を活用していただくため、デジタルカメラで撮影し、画像はデータ保管し、文字が読み取れるように丁寧におこないます。また、書かれている内容や点数を調べながら、1点ごとに文書目録を作成します。この作業には「くずし字」を読める必要がありますが、タイトルや年代、保存状態などを記録してデータベース化していきます。

歴史資料保全活動が完了した古文書は、より良い環境で保管されることになります。また、写真画像や文書目録を利用して、これまでわからなかった歴史の事実を発見することができます。地域の大切な資料は、こうして後世に伝えられていくことになります。



須賀川市立博物館古文書調査(2020年)

別冊 史の杜

FUMINO MORI



地域の歴史を知る

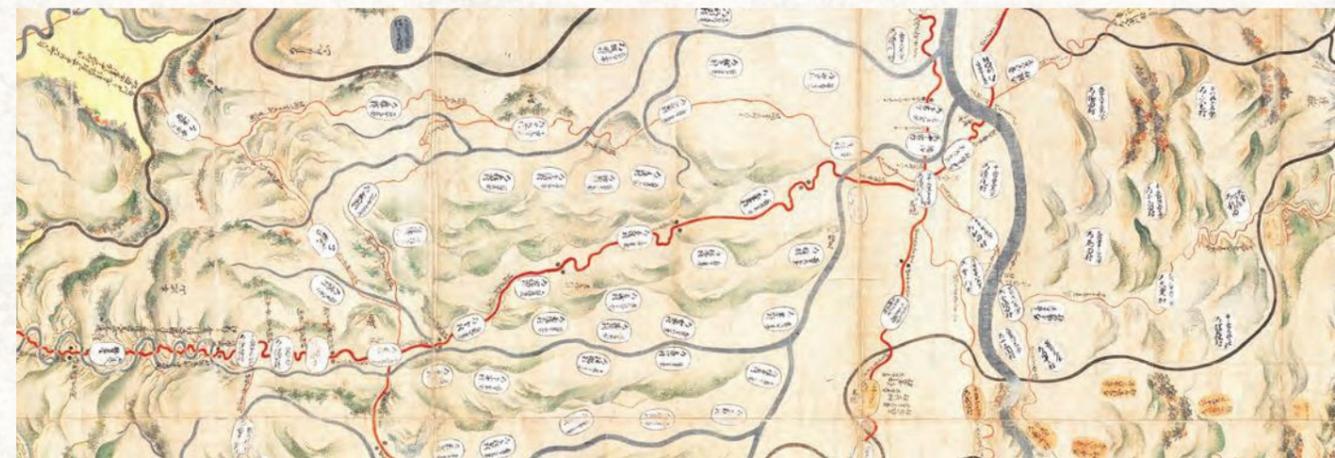
古文書からみた須賀川市域の江戸時代・村の暮らし

No.2

東北大学東北アジア研究センター
上廣歴史資料学研究部門ニューズレター

須賀川市の江戸時代 — 領主支配と村落 —

現在の福島県須賀川市一帯は、江戸時代初期に会津領(領主=上杉景勝→蒲生秀行→加藤嘉明・明成)となったあと、白河藩領を経て、複数の大名と旗本が支配をしていました。たとえば、桑名家文書によると滑川村は白河藩から常陸府中藩(長沼藩)へ、小針家文書の松塚村は旗本の溝口家の領地となっています。この2つの文書群について、私たちの研究部門は須賀川市立博物館と共同調査を実施し、江戸時代の村落史研究に取り組んできました。



「白河・石川・岩瀬・田村・安積・安達六郡絵図」(須賀川市域部分、須賀川市立博物館所蔵)

郷土の歴史資料をまもります ~ぜひ私たちにご相談ください!~

私たちの研究部門では、地域に伝わってきた歴史資料を保存する活動をおこなっています。もし、おうちのタンスや押し入れ、あるいは蔵のなかに「古文書らしきもの」があれば、ぜひ私たちにご相談ください。

【連絡・お問い合わせ】

東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門

〒980-8576 仙台市青葉区川内41 TEL/FAX 022-795-3140

E-mail uehiro@grp.tohoku.ac.jp

URL <https://uehiro-tohoku.net/>

2020年10月1日発行

企画展：おもな展示資料

- ・須賀川市桑名家文書(総点数550点、江戸時代に滑川村で庄屋をつとめた家)
- ・須賀川市小針家文書(総点数121点、江戸時代に上松塚村で名主をつとめた家)

上記の文書群と、須賀川市立博物館所蔵資料や『須賀川市史』『長沼町史』『岩瀬村史』などの歴史書を参考にしながら、みなさんに須賀川市の江戸時代をご紹介します。

本誌は、2020年10月3日(土)から11月15日(日)開催の須賀川市立博物館テーマ展「古文書からみた須賀川市域の江戸時代・村の暮らし」(企画・制作:須賀川市立博物館、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門)をもとに作成しています。

須賀川の支配領主と村高 (明治維新のころ)

支配	No.	村名	村高(石)	
常陸府中藩	1	仁井田村	にいだ	2845.126
	2	江花村	えばな	2103.244
	3	長沼村	ながぬま	1728.924
	4	大久保村	おおくぼ	1458.627
	5	志茂村	しも	1299.420
	6	成田村	なりた	1115.007
	7	矢沢村	やざわ	1052.409
	8	滑川村	なめがわ	745.940
	9	大桑原村	おおくわはら	711.724
	10	畑田村	はただ	699.578
	11	滝村	たき	628.172
	12	町守屋村	まちもりや	581.231
	13	袋田村	ふくろだ	479.647
	14	深渡戸村	ふかわたど	377.545
	15	山寺村	やまでら	339.629
	16	吉兵衛新田	きちべえ	95.016
	17	勢至堂村	せいしどう	44.178
	18	岩淵村*	いわぶち	29.958

支配	No.	村名	村高(石)	
越後高田藩	1	小倉村	おぐら	1758.129
	2	浜尾村	はまお	1327.299
	3	狸森村	むじなもり	1064.005
	4	塩田村	しおだ	1059.683
	5	和田村	わだ	1052.666
	6	前田川村	まえだがわ	970.271
	7	雨田村	あめだ	946.357
	8	下小山田村	しもおやまだ	930.129
	9	大栗村	おおぐり	837.388
	10	田中村	たなか	792.512
	11	中宿村	なかじゅく	718.885
	12	小作田村	こさくだ	679.465
	13	下宿村	しもじゅく	645.906
	14	市野関村	いちのせき	529.846
	15	日照田村	ひでりだ	268.364
	16	上小山田村	かみおやまだ	226.898

支配	No.	村名	村高(石)	
白河藩	1	須賀川宿	すかがわ	2458.719
	2	榊衝村	ほこつき	1525.511
	3	保土原村	ほどわら	1310.203
	4	矢田野村	やたの	1044.146
	5	江持村	えもち	630.036
	6	岩淵村*	いわぶち	613.967
	7	堤村	つつみ	507.925
	8	下小中村	しもこなか	441.089
	9	上小中村	かみこなか	204.898
旗本三枝家	1	今泉村	いまいずみ	2101.943
	2	下柱田村	しもはしらだ	1110.258
	3	稲村	いな	874.487
	4	越久村	おつきゅう	871.662
	5	北横田村	きたよこた	790.715
	6	里守屋村	さともりや	672.474
	7	上柱田村	かみはしらだ	457.661

支配	No.	村名	村高(石)	
旗本溝口家	1	木之崎村	きのさき	1445.318
	2	館ヶ岡村	たてがおか	1137.347
	3	泉田村	いずみだ	1042.617
	4	松塚村	まつづか	721.980
	5	南横田村	みなみよこた	595.919
	6	堀込村	ほりごめ	486.840
土浦藩	1	牛袋村	うしぶくろ	1128.455

出典)村名(表記・よみ)は『日本歴史地名大系7 福島県の地名』(平凡社)、村高は『旧高旧領取調帳』(東京堂出版)より作成
 *常陸府中藩は、支配陣屋を長沼村に置いたため長沼藩とも呼ばれる
 *岩淵村は常陸府中藩と白河藩の相給(1つの村に2人の領主がいる)

このように江戸時代には56か村がありました。村名は、現在の地名と呼び方が変わっているものがあります。たとえば、大桑原(現在は「おおかんばら」)などがそれにあたります。村高とは、年貢の基準となった田畑・屋敷の規模を示したものです。つまり村の生産力ともいえるでしょう。

桑名家文書と滑川村

滑川村は、江戸時代中期以降、常陸府中藩領に属し、村高745石余りの中規模の村でした。庄屋をつとめた桑名家は村落運営を取り仕切るリーダーとして「御用留」を代々作成しました。その冊数は天明4年(1784)から万延元年(1860)まで計73冊に及び、この文書群の大きな特徴となっています。「御用留」には、役所から伝えられる政策の内容が記された触書や、飢饉や洪水などの被害から村を守るために役所に提出した願書の内容などが書き留められています。「御用留」は、滑川村の歴史を知る宝物といえる古文書です。



文化6年(1809)正月「御用留日記」(桑名家文書)

小針家文書と旗本知行地の特徴 ~領主溝口家との関係~

小針家が名主をつとめた上松塚村は、「交代寄合」の溝口家が領主として支配していました。交代寄合とは、領地にも屋敷を構える特別な旗本(徳川将軍家の直臣で、1万石未満の領地を支配する武家)です。溝口家は宝暦2年(1752)以降、南横田村に居所をもちました。また、同村に支配の拠点となる陣屋を置いたことから、溝口家の領地6か村は「横田領」と呼ばれました。江戸時代後期になると旗本は家計のやりくりに行き詰まるものが多く、溝口家も同様であったことを小針家文書から知ることができます。こうした状況を乗り切るために、溝口家と知行地の百姓の距離はしだいに近づいていきました。



現在の横田陣屋跡(市天然記念物「横田陣屋御殿桜」案内板)